

地域におけるスポーツ医・科学支援の在り方に関する検討会議 提言（概要）

～全国のアスリートがスポーツ医・科学支援を受けられる環境の実現を目指して～

令和4年11月

検討の背景

スポーツ医・科学分野の研究・支援を推進し、科学的根拠に基づく選手強化活動の充実を図ることは、我が国の国際競技力の向上に不可欠であるとともに、アスリートが健康を維持しながら安全に競技を実施するためにも極めて重要である。

「スポーツ基本計画」（令和4年3月25日）及び「持続可能な国際競技力向上プラン」（令和3年12月27日）において、国は、居住地域にかかわらず、全国のアスリートがスポーツ医・科学によるサポートを受けられる環境整備に取り組むとしており、実現のための今後の施策推進に向けた課題等について検討することを目的として、検討会議を設置（令和4年5月）。

現状・課題

- ◆ 地域における競技力向上の現場では、スポーツ医・科学支援の取組内容や実施体制は様々であり、また国民体育大会（国体）を開催した都道府県の実施体制が開催後に縮小される事例も散見される。
- ◆ ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）が展開するスポーツ医・科学支援のノウハウ（HPSCパッケージ）を地域で実施する体制の一層の充実が必要である。

今後の方向性

- アスリートの心身の状態を客観的に把握するためのアセスメントを行い、その結果に基づく適切なサポートの提供をしながら継続的に効果を観察・評価するという一連の流れでスポーツ医・科学支援を実施することが重要である。

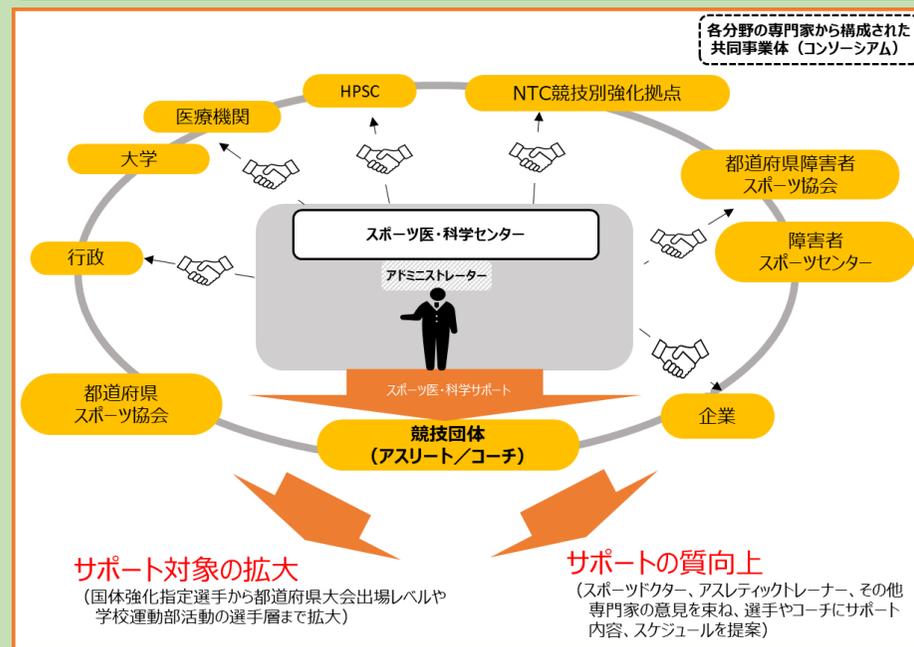


- 地域のスポーツ医・科学支援においては、① フィジカル・フィットネスチェック、② メディカルチェック、③ 栄養サポート、④ 心理サポートの4つの機能を有することが求められる。その上で、競技レベルに応じて他の支援機能も併せて有することが望ましい。
- 支援対象の範囲は、従来の 国体強化指定選手等から都道府県大会出場レベルや学校運動部活動の選手層まで拡大させることが望ましい。

※別紙参照

支援の質の向上と対象範囲の拡大を両輪で進めるためには、地域の資源を有効活用した実施体制の構築が不可欠。

- ◆ スポーツ医・科学支援の質と対象範囲についてのビジョンが共有された共同事業体（コンソーシアム）の形成が重要。
- ◆ 関係機関が有する資源を見える化・共有し、共通ビジョンに則して有機的な連携・協働を主導する中核人材（アドミニストレーター）を配置。



競技レベル

支援の対象	地域への展開手法	主な支援機能の範囲								
		アセスメント			サポート					
国際大会連続メダル獲得	HPSCによるトップアスリートへのフルパッケージ支援	トネスチエック	フィジカル・フィッツ	メデイカルチェック	栄養サポート	心理サポート	フィジカルトレーニングサポート	映像・ITサポート	動作分析	レース・ゲーム分析
シニア日本代表 国際大会メダル獲得										
年代別日本代表レベル	HPSCとの連携が可能な支援を推奨									
全国大会上位8位以上	アスリートのレベルに応じ、内容や頻度は濃淡をつけて実施 PTやトレーナーと連携したスクリーニング(※)									
全国大会出場レベル										
都道府県大会出場レベル										
学校運動部活動 等	最新の医科学情報の展開・相談窓口 e-ラーニング等のオンラインの活用、セルフスクリーニング(体験会等)									
スポーツへの参加	スポーツ医・科学の知見を活用した地域住民の健康増進の取組									
身体活動の実施										

実情に応じて取り組む対象・範囲

現在の対象・範囲

今後求められる対象・範囲

※1 灰色の箇所は、地域に求められるスポーツ医・科学支援機能の範囲を示している。

※2 スクリーニングとは、スポーツ外傷・障害・疾病を有する確率の高い人を選別する方法。セルフスクリーニングはアスリート自身で行う方法のことをいう。